

決算説明会資料

2019年度（2020年3月期） 第2四半期

DOWAホールディングス株式会社

2019年11月15日

2019年度上期 業績概要

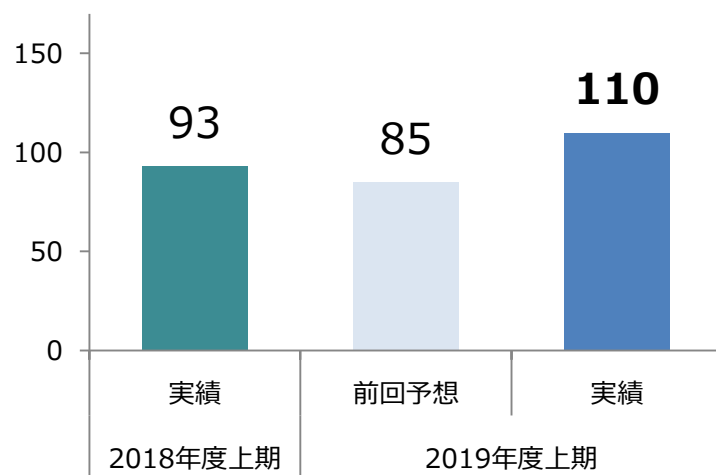
単位：億円

	2018年度上期	2019年度上期		比較増減			
	実績 ①	前回予想 ②	実績 ③	前年比 (③ - ①)		前回予想比 (③ - ②)	
売上高	2,218	2,170	2,307	89	4%	137	6%
営業利益	93	85	110	17	18%	25	30%
経常利益	128	108	124	△ 3	△3%	16	15%
親会社株主に帰属する 当期純利益	88	75	79	△ 9	△11%	4	6%

✓ 前回予想（5/13公表値）との比較では、増収増益となった

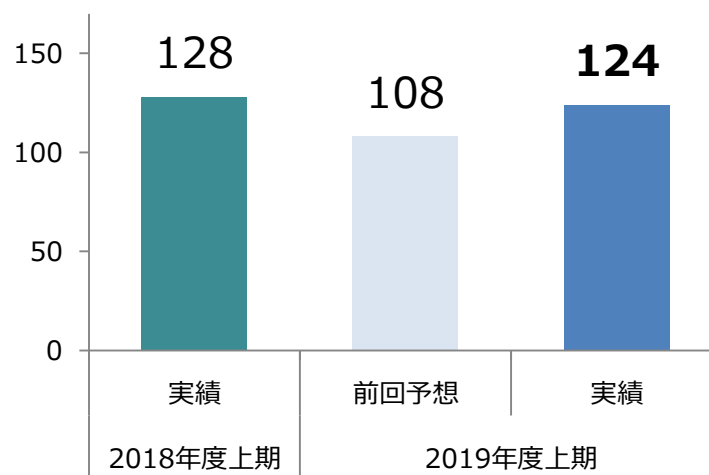
■ 営業利益推移

単位：億円



■ 経常利益推移

単位：億円



2019年度上期 経常利益の主な増減要因（前回予想比）

■ 相場変動による影響

+0.4 億円

- ・為替は期中に円高が進行し、外貨建て収入が**減少**
- ・金属価格はベースメタルは**下落**、PGM含め貴金属は**上昇**

■ 需要面の変化など

+16.2 億円

- ・自動車関連製品、スマートフォン関連製品の需要は**低調**
- ・廃棄物処理・リサイクル関連の集荷環境は**堅調**
- ・新エネルギー関連製品は、中国向け需要が**回復**

■ 期末評価による影響

+9.1 億円

- ・亜鉛のたな卸資産の簿価切下額による損失幅が**縮小**

■ 営業外収支

△9.2 億円

- ・主に製錬部門において持分法適用会社の収益が**低下**

自動車関連、スマートフォン関連製品の需要は軟調であったが、製錬、廃棄物処理が好転し、前回予想を上回る着地となった

2019年度下期の事業環境（ダイジェスト）

項目	関連する事業	事業環境	前回予想比
為替	製錬、電子材料	上期平均とほぼ同等の水準を想定（108円/ドル）	↓
金属価格	製錬	ベースメタルは軟調、貴金属は上昇を想定	↑
自動車	製錬、金属加工、熱処理	当社製品の需要は底打ちするも、前回予想よりも下振れ	↓
電子部品	電子材料、金属加工	世界貿易摩擦の影響を受け、電子部品関連需要は底ばい	↓
廃棄物処理	環境・リサイクル	国内の廃棄物発生量は横ばい、東南アジアは集荷競争が激化	↓
リサイクル	環境・リサイクル	国内外の環境規制強化により原料の集荷環境は堅調さが継続	→
新エネルギー	電子材料	中国市場向けが堅調も、第4Q以降は不透明	↑

**製錬部門は貴金属価格の上昇により上向くものの、
製錬以外の部門は、前回予想よりも低調となる見通し**

2019年度通期 業績予想

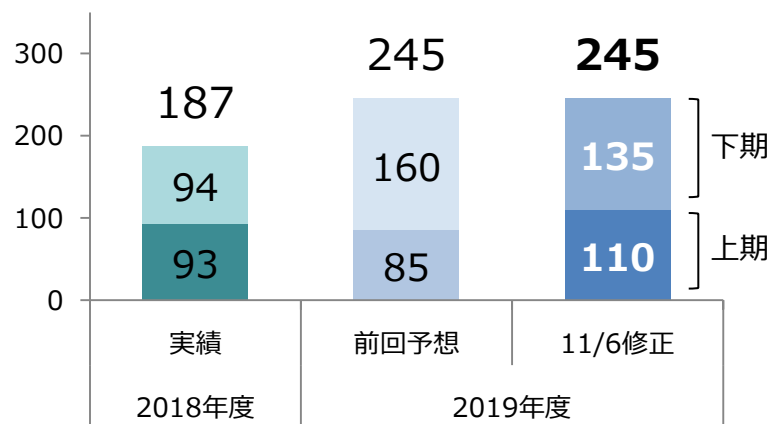
単位：億円

	2018年度 実績 ①	2019年度		比較増減			
		前回予想 ②	11/6修正 ③	前年比 (③ - ①)		前回予想比 (③ - ②)	
売上高	4,529	4,550	4,800	270	6%	250	5%
営業利益	186	245	245	58	31%	-	0%
経常利益	243	300	300	56	23%	-	0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	149	200	200	50	33%	-	0%

✓ 足元の事業環境を勘案し、11/6に通期業績予想の内訳を修正

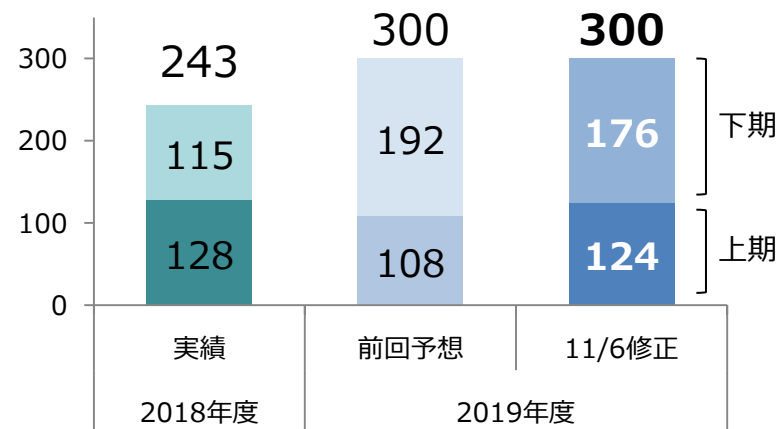
営業利益推移

単位：億円



経常利益推移

単位：億円



2019年度通期 業績予想 (セグメント別)

単位：億円

	2019年度 前回予想			2019年度 11/6修正			比較増減		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
環境・ リサイクル	1,067	66	67	1,123	60	62	56	△ 6	△ 5
製錬	2,093	59	95	2,189	86	124	96	27	29
電子材料	656	7	26	908	10	23	252	3	△ 3
金属加工	917	66	68	872	51	53	△ 45	△ 15	△ 15
熱処理	324	33	32	298	25	25	△ 26	△ 8	△ 7
その他、全社・消去	△ 507	14	12	△ 590	13	13	△ 83	△ 1	1
合計	4,550	245	300	4,800	245	300	250	0	0

参考：2019年度通期 業績予想（前提条件、感応度）

感応度（営業利益/下期）

	前提条件	変動幅	感応度
為替	108.0 円/\$	±1 円/\$	2.3 億円
銅	5,700 \$ / t	±100 \$ / t	0.3 億円
亜鉛	2,500 \$ / t	±100 \$ / t	2.1 億円
インジウム	150 \$ / kg	±10 \$ / kg	0.3 億円

※為替感応度の内訳は、製錬部門2.0億円、電子材料部門0.3億円です。

為替、金属価格比較

	2018年度			2019年度 前提				(参考)
	上期平均	下期平均	通期平均	前回予想	上期平均	下期	通期	10月平均
為替：(¥/\$)	110.3	111.6	110.9	110.0	108.6	108.0	108.3	108.1
銅：(\$/t)	6,487	6,194	6,341	6,400	5,956	5,700	5,828	5,743
亜鉛：(\$/t)	2,824	2,667	2,746	2,800	2,554	2,500	2,527	2,446
インジウム：(\$/kg)	286	222	254	180	164	150	157	150

感応度については、現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の影響額は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

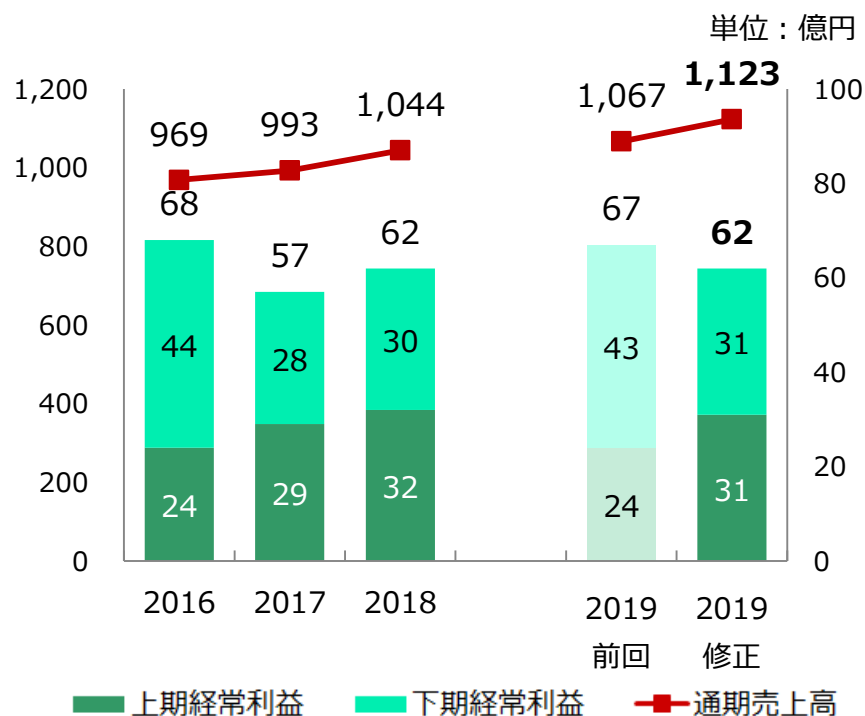
各セグメントにおける 主要施策の進捗状況

環境・リサイクル① 2019年度の概況

事業環境

- ・廃棄物：国内は発生量横ばい、東南アジアはタイ・シンガポールにおいて集荷競争が激化
- ・リサイクル：原料の集荷環境は堅調さが継続

売上高・経常利益



《主要製品の数量動向》

(2018年度上期 = 100)

	2018年度		2019年度	
	上期	下期	上期	下期
国内廃棄物中間処理量	100	97	104	106
溶融・再資源化処理量	100	105	115	120
東南アジア廃棄物処理額	100	96	94	107
家電リサイクル処理台数	100	103	110	101

2019年度下期の概況（前回予想比）

- ・難処理廃棄物の処理量、単価ともに横ばい
- ・低濃度PCBは処理量、単価ともにやや低下
- ・土壌浄化は高収益案件の受注が減少
- ・東南アジアの廃棄物処理額は前年度比では増加も、前回予想より下振れ

環境・リサイクル② 東南アジアにおける廃棄物処理事業の拡大

タイ

中期計画2020：有害廃棄物処理へ事業領域を拡張

2019年度の進捗

- ・7月:有害廃棄物処理の増量認可を取得
- ・下期:有害廃棄物の増処理を計画
HV/EV用廃電池のリサイクル開始

タイの焼却処理施設



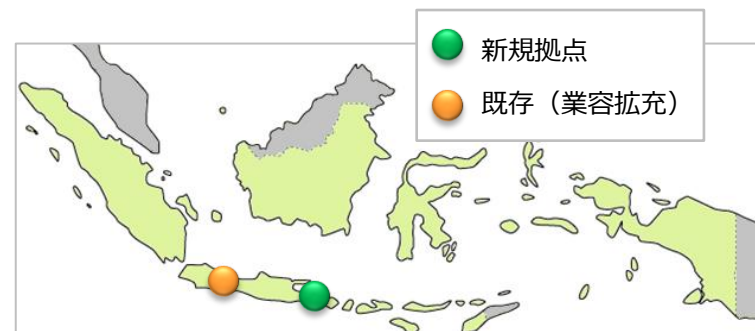
インドネシア

中期計画2020：第2処分場開設、焼却事業の開始

2019年度の進捗

- ・第2処分場:環境アセスメントは年内完了見込
2019年度内に着工予定
- ・焼却炉:建設許可を取得、今年度内に着工予定

インドネシアにおける事業拡大



- 第2処分場:2020年度末に開設予定
- 焼却炉:2021年度下期に操業開始予定

■ 溶融・再資源化事業の拡大

家庭ごみなどを焼却した後の灰を建設資材に再資源化し
含有金属を回収 ⇒ 廃棄物の再資源化、処分場の延命

- ・栃木、福島の2拠点体制により処理量を拡大
- ・さらなる処理量拡大に向けた前処理工程の強化

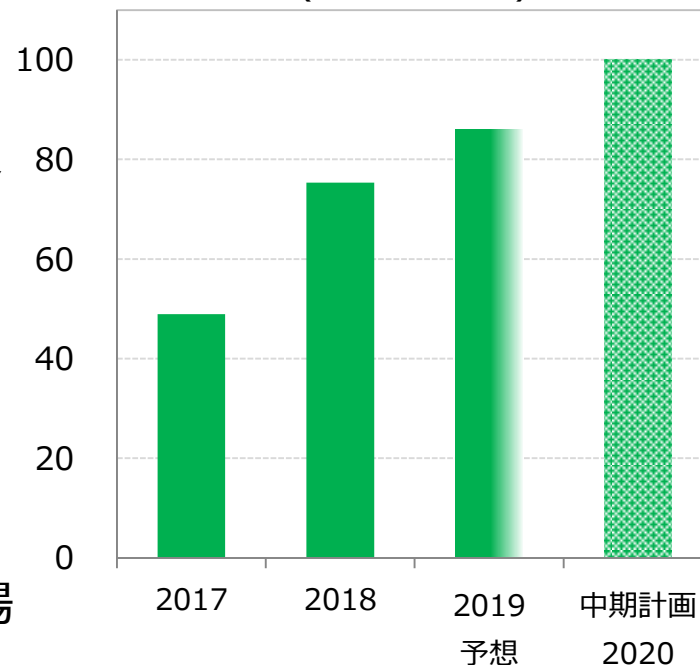
■ 埋立処分場の新設・拡張

- ・エコシステム花岡：既存処分場の隣接地に新たな処分場
を建設中、2021年4月開設予定
- ・グリーンフィル小坂：処分場拡張に向けた環境アセスメント開始

■ バイオマス発電事業の開始

飼料や肥料へのリサイクルが難しい食品廃棄物を原料とする
バイオマス発電事業に参入。2021年4月に操業開始を予定

溶融・再資源化の処理量推移
(2020 = 100)



バイオマス発電施設 外観イメージ

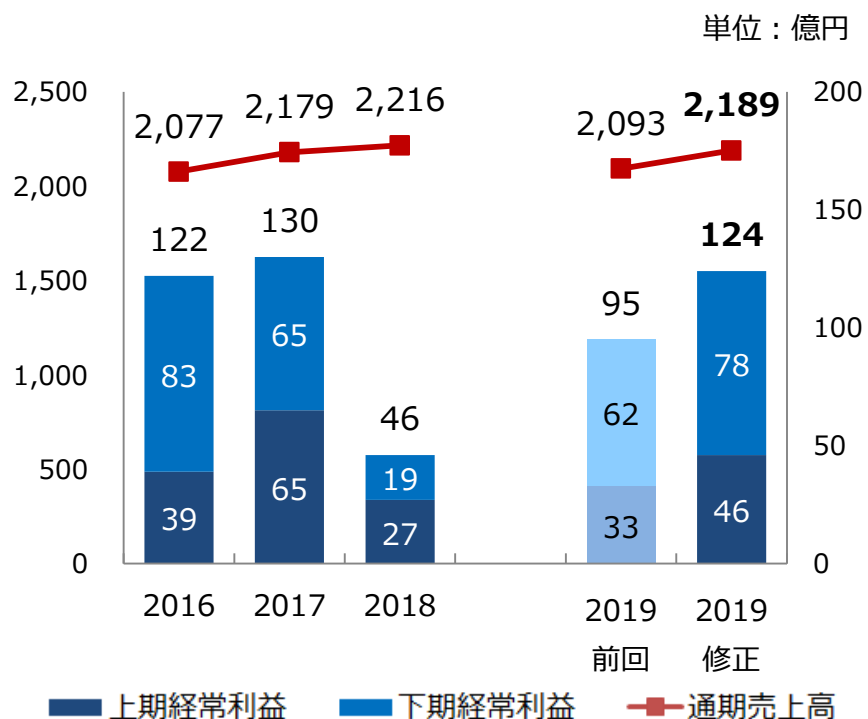


製錬① 2019年度の概況

事業環境

- ・金属価格は、世界貿易摩擦の影響を受け、ベースメタルは軟調、PGM含む貴金属は上昇
- ・地金の需要は、銅・亜鉛がやや減速

売上高・経常利益



《主要製品の数量動向》

(2018年度上期 = 100)

	2018年度		2019年度	
	上期	下期	上期	下期
銅生産量 (小坂・小名浜)	100	97	98	102
金生産量 (小坂)	100	102	102	108
亜鉛生産量 (秋田)	100	113	99	109

2019年度下期の概況（前回予想比）

- ・亜鉛の原料購入条件は改善効果が継続
- ・使用済み自動車排ガス浄化触媒からのPGM回収事業は、集荷量拡大を見込む
- ・ロス・ガトス鉱山は、計画どおり2019年7月に建設完了しランプアップ中。2020年初より本格操業へ

製錬② 製錬・リサイクル複合コンビナートの機能深化

製錬・リサイクル複合コンビナートの特長

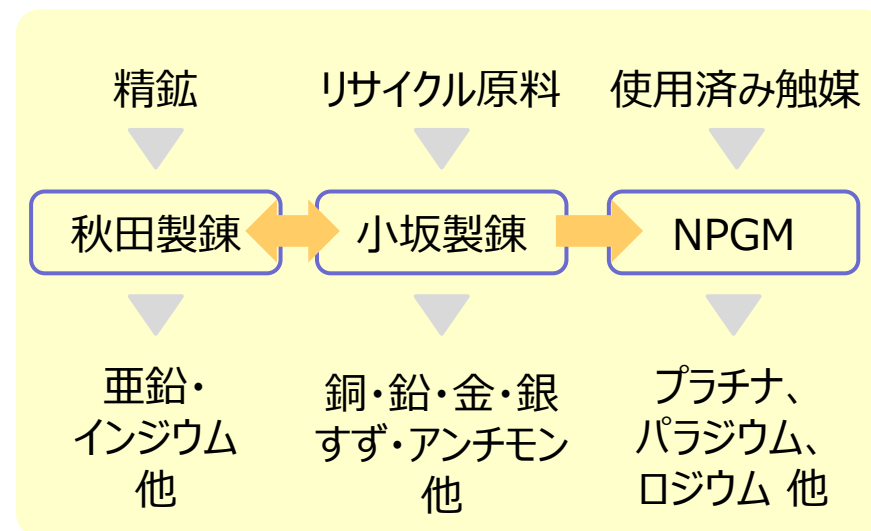
複数の製錬工程を組み合わせることによって
約20種類の有価金属を回収

中期計画における主要施策

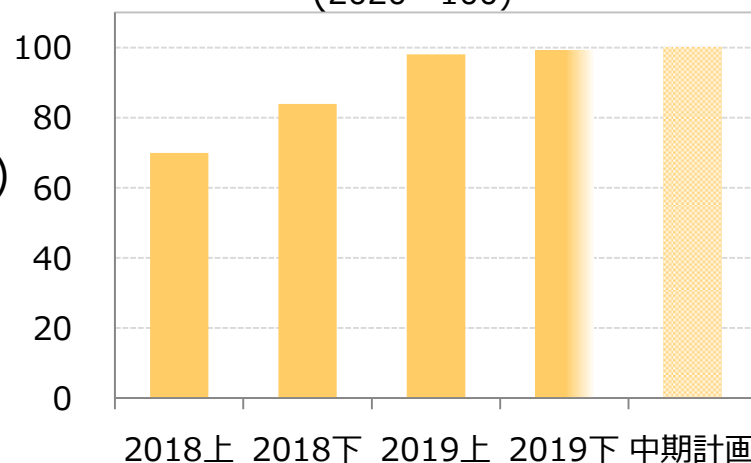
- ・生産能力増強（秋田製錬、NPGM）
- ・原料中の不純物の除去能力の増強
（秋田製錬、小坂製錬）
- ・副産金属の回収強化（小坂製錬）
- ・使用済み排ガス浄化触媒の集荷拡大（NPGM）
- ・コンビナートに適した鉱石原料の確保（ロス・ガトスPJ）

特定の金属からの収益に依存しない
独自の事業ポートフォリオの強化

製錬・リサイクル複合コンビナート



使用済み排ガス浄化触媒の処理量推移
(2020 = 100)



■ ロス・ガトス鉱山の操業開始

- ・操業度を高め、2020年初からのフル生産を計画
- ・精鉱生産量 亜鉛約50千トン/年 鉛約30千トン/年
- ・2020年度から利益貢献を見込む

※権益比率(2019年11月現在)

DOWA 48.5% SSMRC 51.5%

- ・ロス・ガトス鉱山の生産開始により、自山鉱比率は約40%へ



鉱石粉碎設備



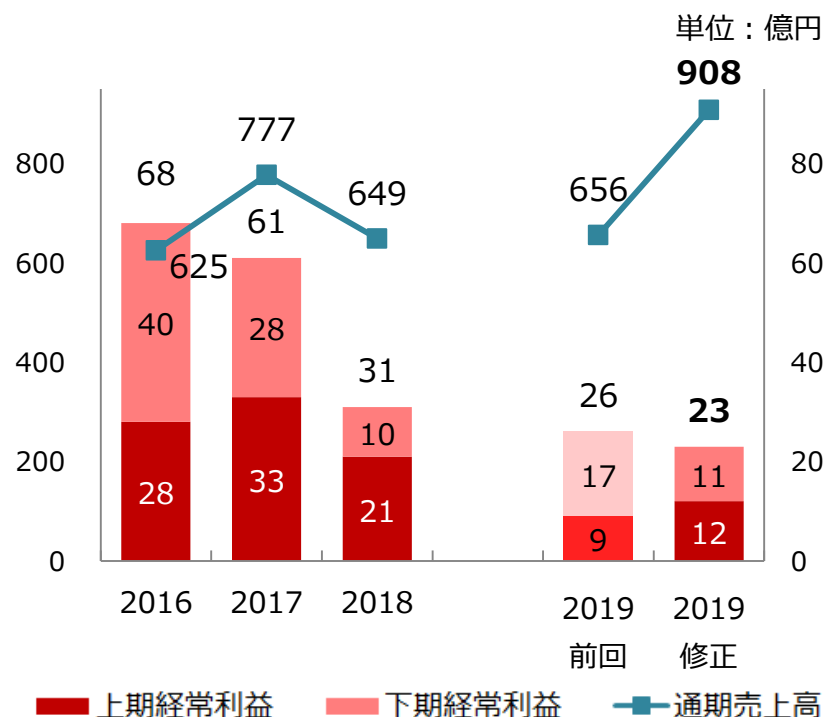
選鉱場および貯鉱ドーム

電子材料① 2019年度の概況

事業環境

- ・太陽光パネルの設置量は増加、発電効率の高い新型パネル比率が向上
- ・半導体市況は世界貿易摩擦の影響を受け低迷

売上高・経常利益



《主要製品の数量動向》

(2018年度上期 = 100)

	2018年度		2019年度	
	上期	下期	上期	下期
LED販売量	100	63	64	61
銀粉販売量	100	98	117	113
新規製品収入 (サンプル代金など)	100	82	125	140

2019年度下期の概況（前回予想比）

- ・銀粉は、セル配線の細線化を実現する品質優位性により、新型パネル向け需要を取り込む
- ・スマートフォン関連製品の市況低迷により、近赤外LEDなど新規製品の立ち上がりは遅延

電子材料② 燃料電池向け 複合金属酸化物粉の拡販

製品概要

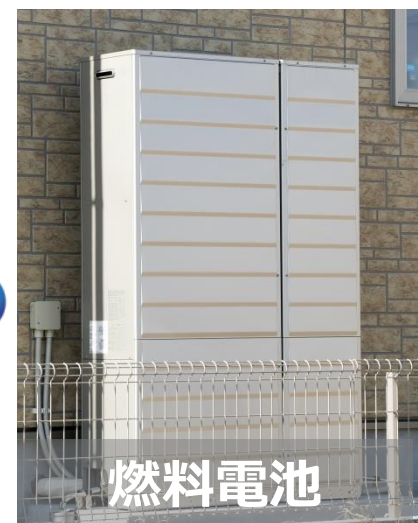
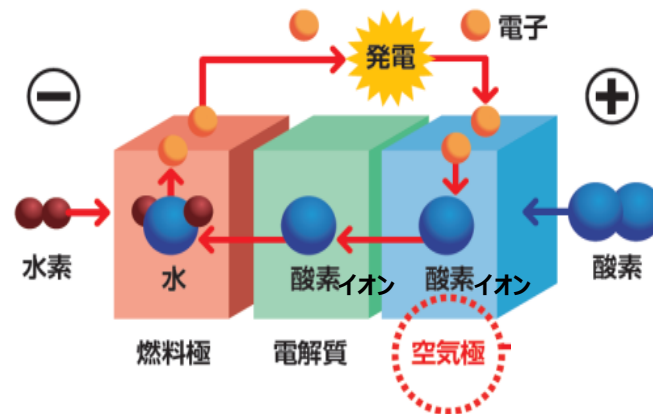
- ・燃料電池の空気極向け材料
- ・空気から酸素を取り込みイオン化する

事業環境

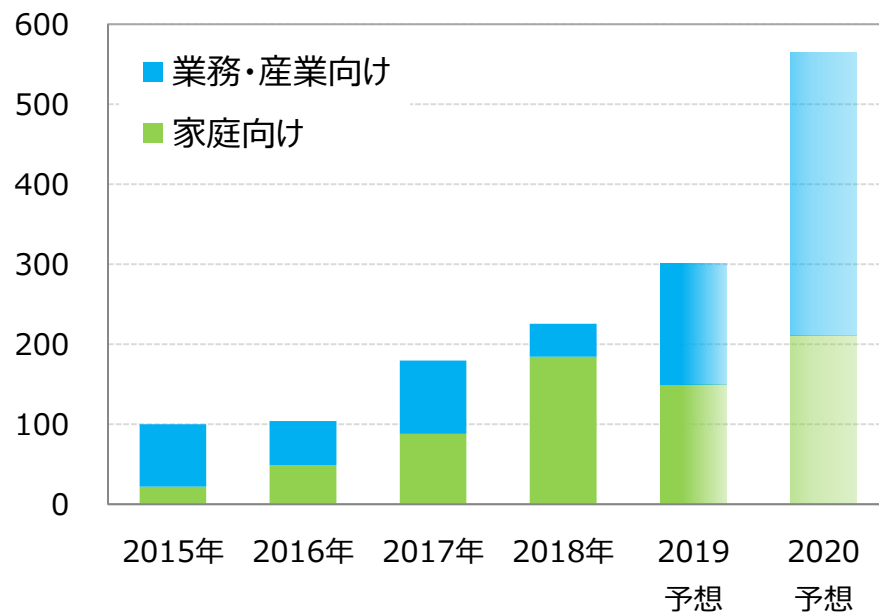
- ・燃料電池は、家庭向けの普及とともに、近年、非常用電源として病院やホテルなど業務・産業向け需要が拡大
- ・今後、オフィスビルや工場における大型の自家発電設備への展開も期待される

今後の取り組み

- ・大型の自家発電設備に要求される品質への改良を進め、着実に販売数量を拡大
- ・2019年度からの黒字化を見込む



複合金属酸化物粉の販売数量 (2015 = 100)



電子材料③ ナノ銀粉の用途拡大

■ ナノ銀粉の用途

- ・半導体素子などの精密電子部品の接合材料
- ・電子部品の電磁波による誤作動を防ぐシールド材料

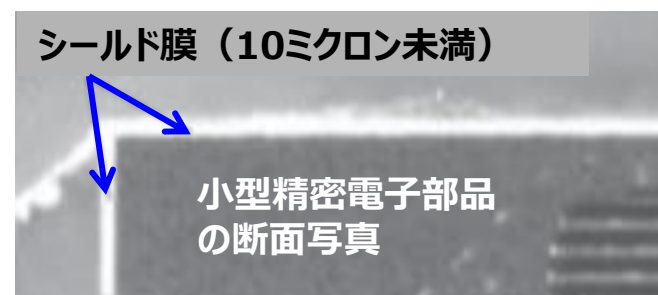
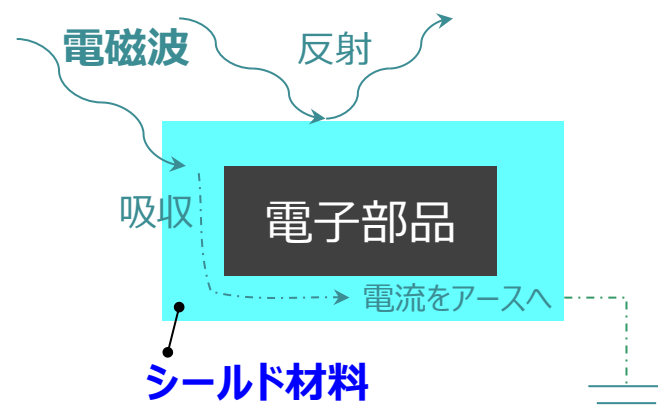
■ シールド材料用途における特徴

スプレー方式を用いて、小型精密電子部品の表面に極薄シールド膜を形成可能

高額なスパッタリング装置が不要となるため、ユーザーの大幅なコストダウンに寄与できる

■ 今後の見通し

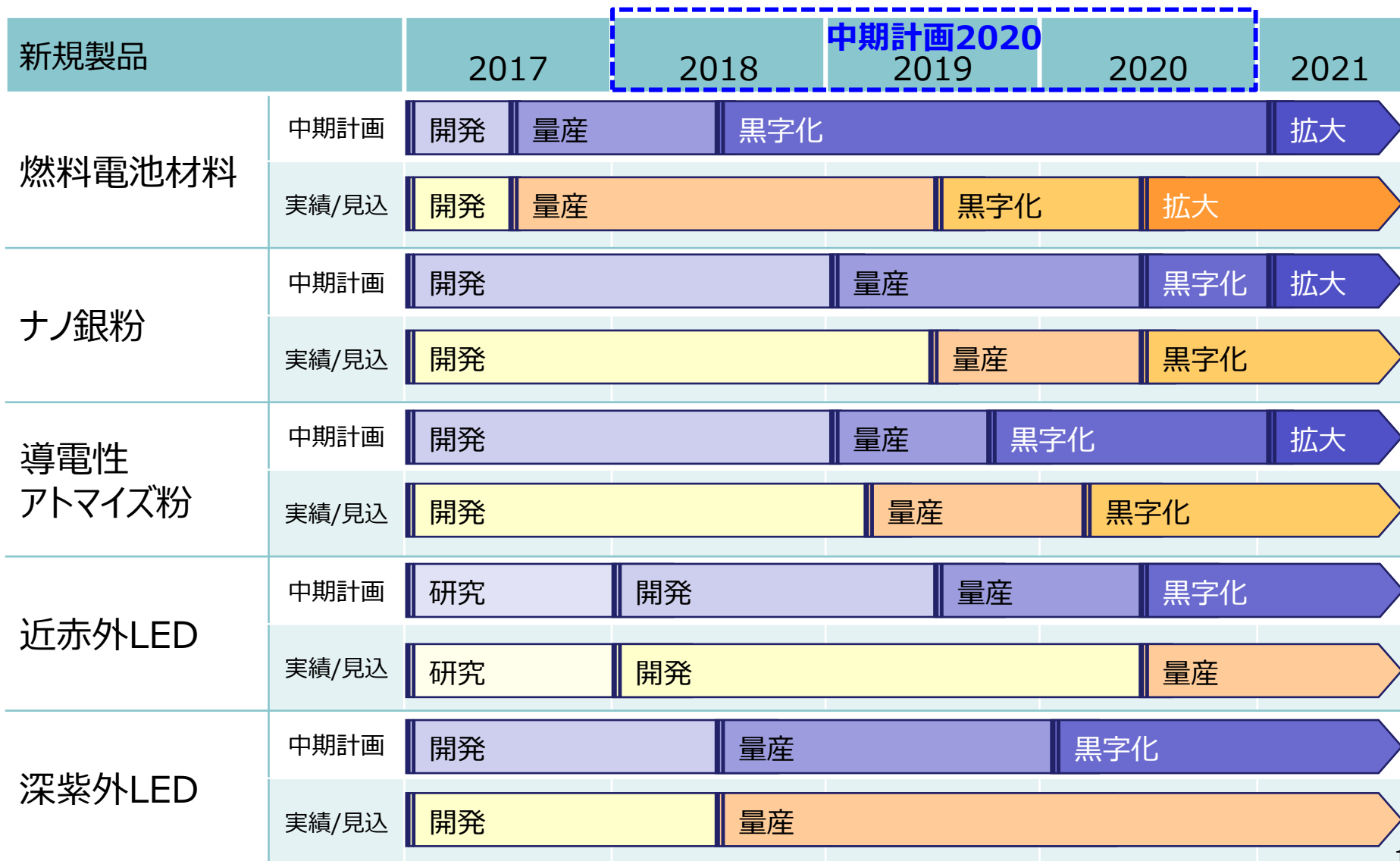
すでに採用の進んでいる接合材料用途と合わせシールド材料用途への拡販を進め、2020年度からの黒字化を目指す



シールド化プロセス	スパッタリング	スプレー
品質	○	○
コスト	×	◎
生産性	×	○

電子材料④ 新規製品の進捗状況

- ・燃料電池材、ナノ銀粉、導電性アトマイズ粉は、概ね中期計画2020の目論見通りに進捗
- ・近赤外LED、深紫外LEDは、市場形成時期および当社製品の立ち上がり時期が遅延の見通し

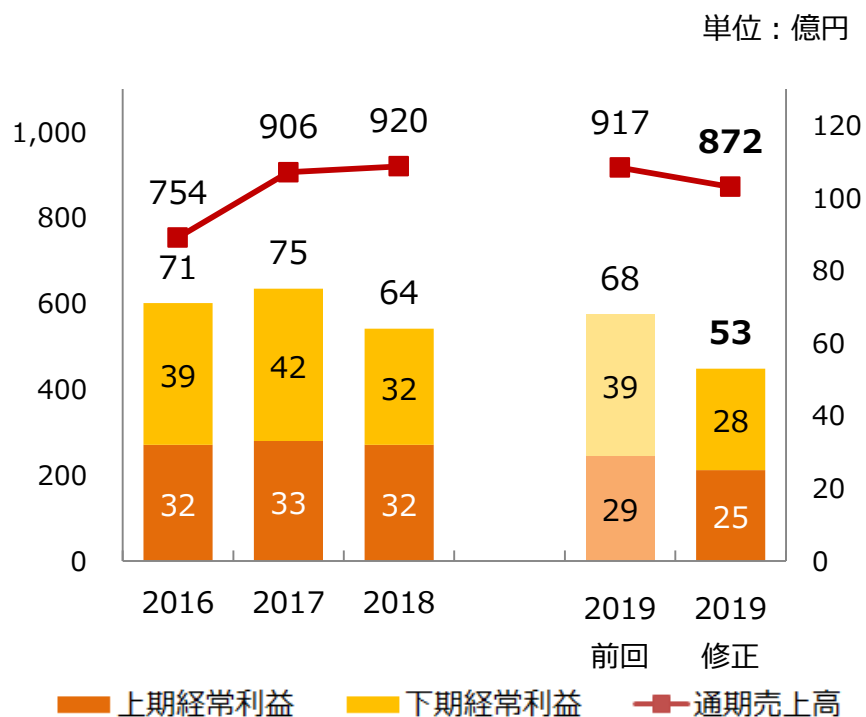


金属加工① 2019年度の概況

事業環境

- ・自動車生産は世界的に低調
- ・半導体市況は調整局面が継続
- ・自動車の電動化・知能化、情報通信機器の多機能化・高速通信化が進む

売上高・経常利益



《主要製品の数量動向》

(2018年度上期 = 100)

	2018年度		2019年度	
	上期	下期	上期	下期
伸銅品販売量 (自動車向け)	100	106	97	103
伸銅品販売量 (IoT機器向け)	100	91	79	91

2019年度下期の概況（前回予想比）

- ・伸銅品、貴金属めっきは、生産性向上・コストダウンに注力し、市況の変化に対応
- ・金属-セラミックス基板は販売堅調
- ・中長期に拡大する需要に対し、主要拠点での設備増強を着実に進める

金属加工② 能力増強、拠点拡充の進捗

伸銅品

- ・中長期的な需要拡大を見据えた銅合金の増産・拡販

国内2拠点それぞれで高機能銅合金の生産能力増強のため大型投資が進行中

- ・海外加工拠点の強化

中国（南通）：すずめっき加工の中国第2拠点

2019年末に建設完了の見通し

2020年より中国国内の新規需要を取り込む



めっき

- ・メキシコ拠点の立ち上げ

欧米系ユーザーへの拡販に注力

- ・国内拠点のライン最適化

生産ラインのスクラップ&ビルドで需要トレンドの変化に対応し生産性も向上

金属-セラミックス基板

- ・生産能力増強に向けた投資を継続（ボトルネック工程の解消）

- ・産業機械向けに加え電鉄・車載向けの拡販、新規製品の開発

金属加工③ 金属-セラミックス基板の事業拡大

市場動向

- ・エコカー市場拡大により、電動化のキーパーツである車載用パワーモジュールの需要増
- ・軽量で、高い絶縁性・放熱性を有する金属-セラミックス基板のニーズが拡大

中期計画における戦略

- ・2015～2017年度：フィン一体型基板の開発と生産能力増強
- ・2018～2020年度：エコカー向けに拡販

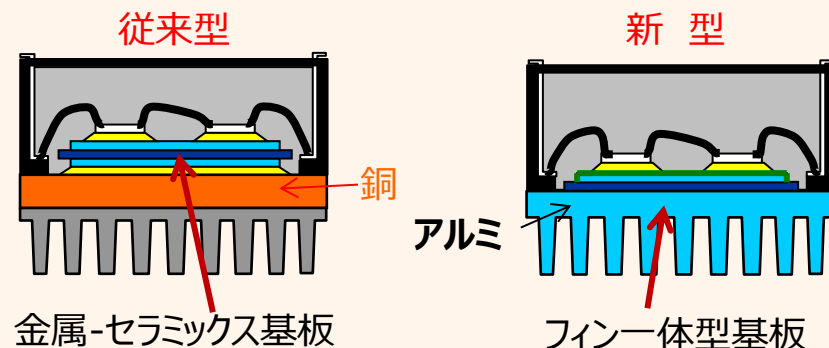
最適ポートフォリオの実現

主力の産業機械向けに加えて、電鉄・車載向けへの拡販により、**景気変動に強いバランスの取れた販売構成を実現**

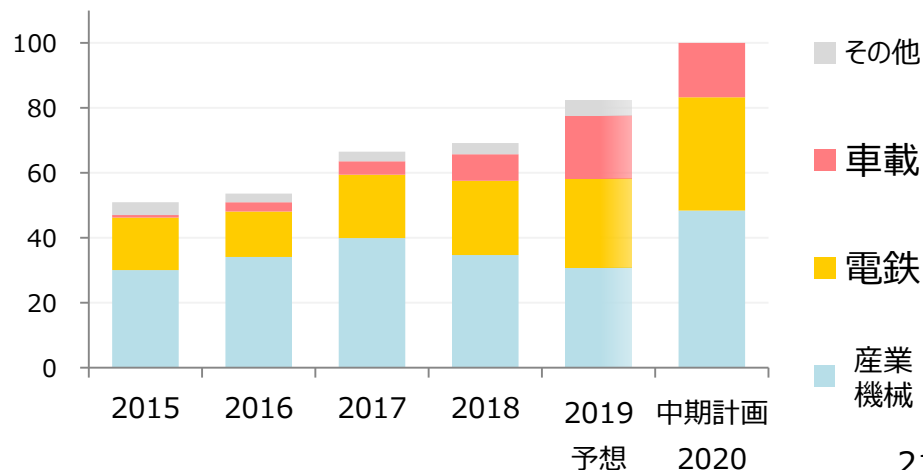
◆ フィン一体型基板とは

冷却フィンを一体化した新型金属-セラミックス基板
銅ベース板を使用せず、基板とアルミ製冷却フィンを直接接合し、ユーザーの工程削減とパワーモジュールの軽量化を実現

パワーモジュールの断面図



金属-セラミックス基板の売上高推移 (2020 = 100)

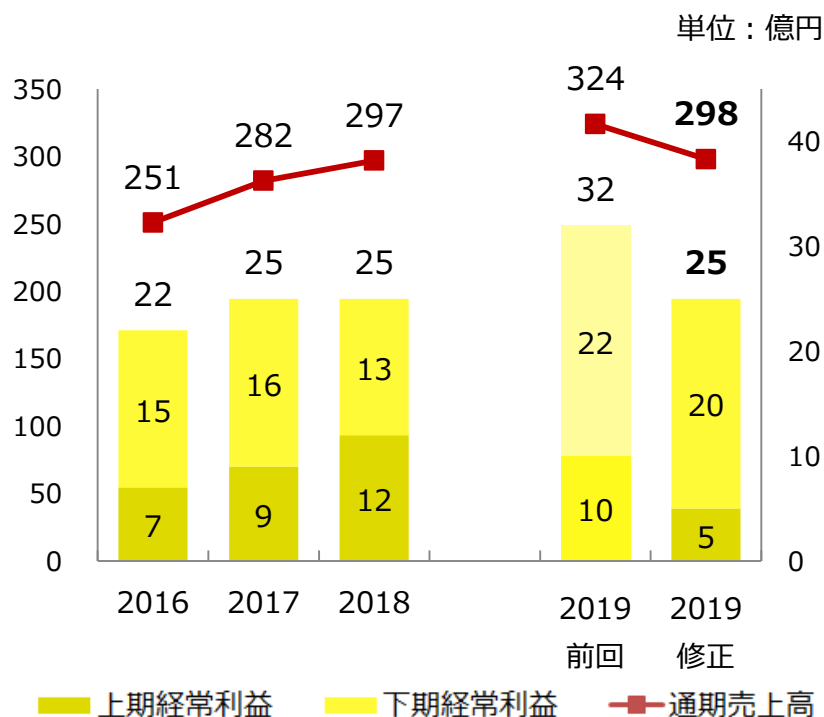


熱処理① 2019年度の概況

事業環境

- ・自動車生産は世界的に低調、特に中国やインドでは販売不振が長期化
- ・中長期的には自動車の生産台数は増加

売上高・経常利益



《主要製品の数量動向》

(2018年度上期 = 100)

	2018年度		2019年度	
	上期	下期	上期	下期
熱処理加工売上高	100	99	94	105
工業炉売上高	100	149	113	137

2019年度下期の概況（前回予想比）

- ・熱処理加工の需要は全般的に低調、新規案件の獲得を進める
- ・工業炉の新規受注件数やメンテナンス工事案件数も前回予想比で減少の見通し
- ・海外生産の拡大や環境性能向上車の増加といった中長期トレンドに沿った施策を展開

熱処理② 中長期トレンドを見据えた施策の展開

自動車生産の中長期的なトレンド

海外における自動車生産の増加、部品の現地調達化のさらなる加速

⇒ 顧客での設備増強ニーズが拡大（海外：増強、国内：縮小・再編）

エコカーなど環境性能に優れた自動車の生産比率が増大

⇒ 新たな熱処理加工の引き合いが増加、ビジネスチャンスが拡大

熱処理加工と設備販売・メンテナンスの両事業で需要を取り込み

高効率な熱処理設備の開発

小ロット対応可能なセル式真空浸炭炉を開発

自動車メーカーなどで導入開始、順次拡販を進める

海外における生産能力の拡大

インド新工場立ち上げなど、順次生産能力を拡大

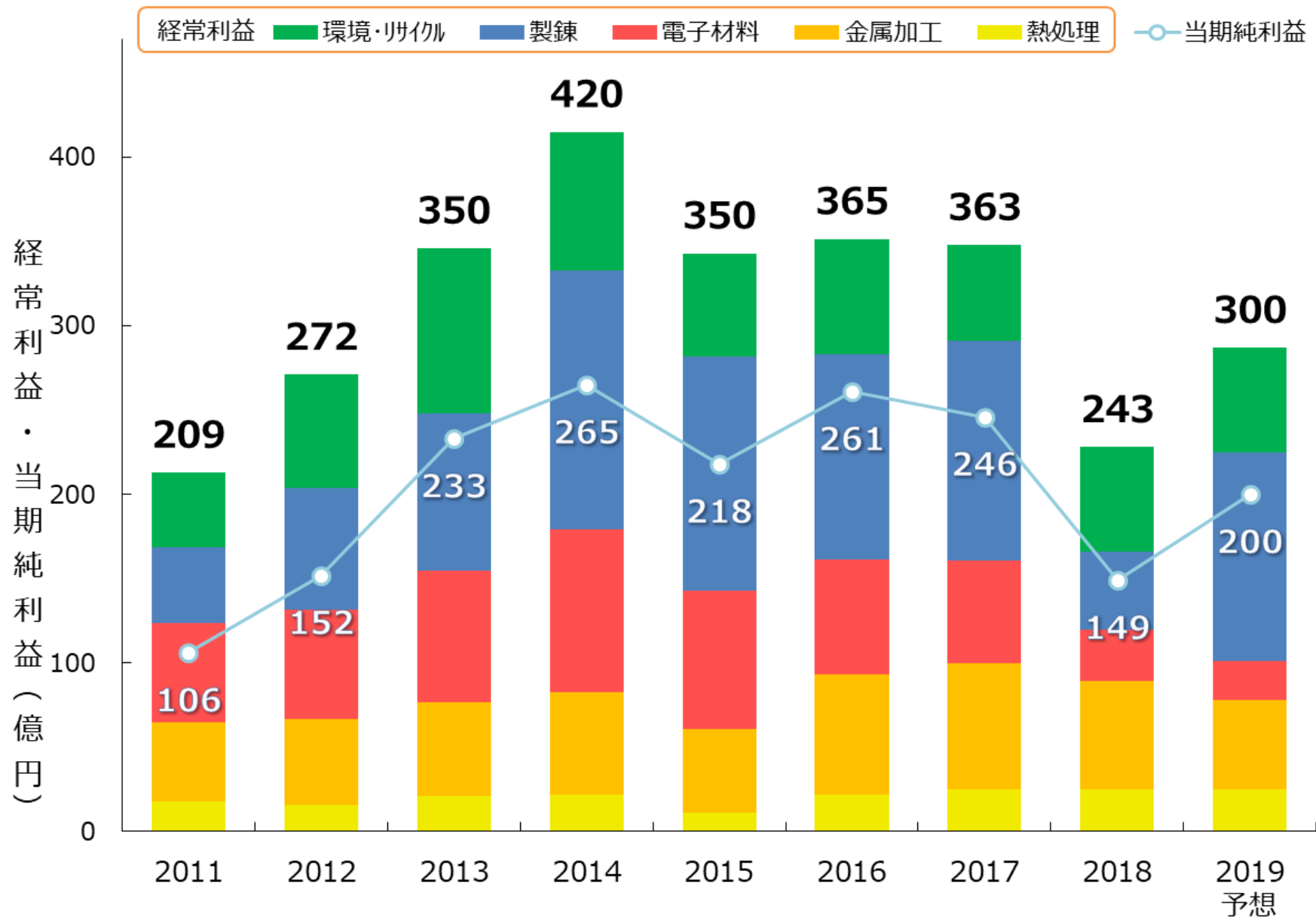
さらなる需要増を見据えた設備投資を計画



セル式真空浸炭炉

自動車業界の動向を見据えた的確な施策を展開していく

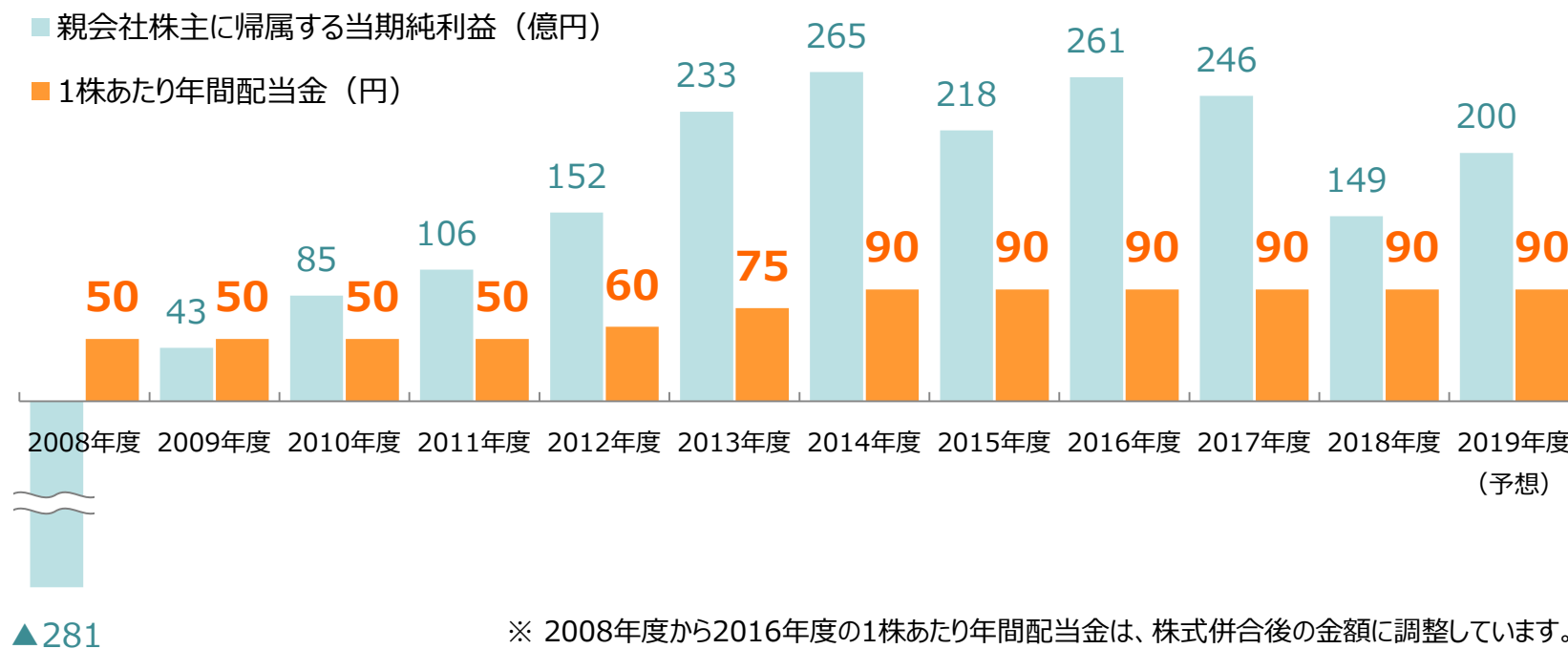
經常利益推移



株主還元

当社は安定した配当の継続を基本に、企業体質強化と将来の事業展開に備えた内部留保の充実を勘案のうえ、業績に応じた配当を行うことを方針としております。

中期計画2020の期間（2018年度～2020年度）においては、1株あたり90円の安定した年間配当を維持した上で、利益水準に応じた増配を目指してまいります。



DOWA

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。